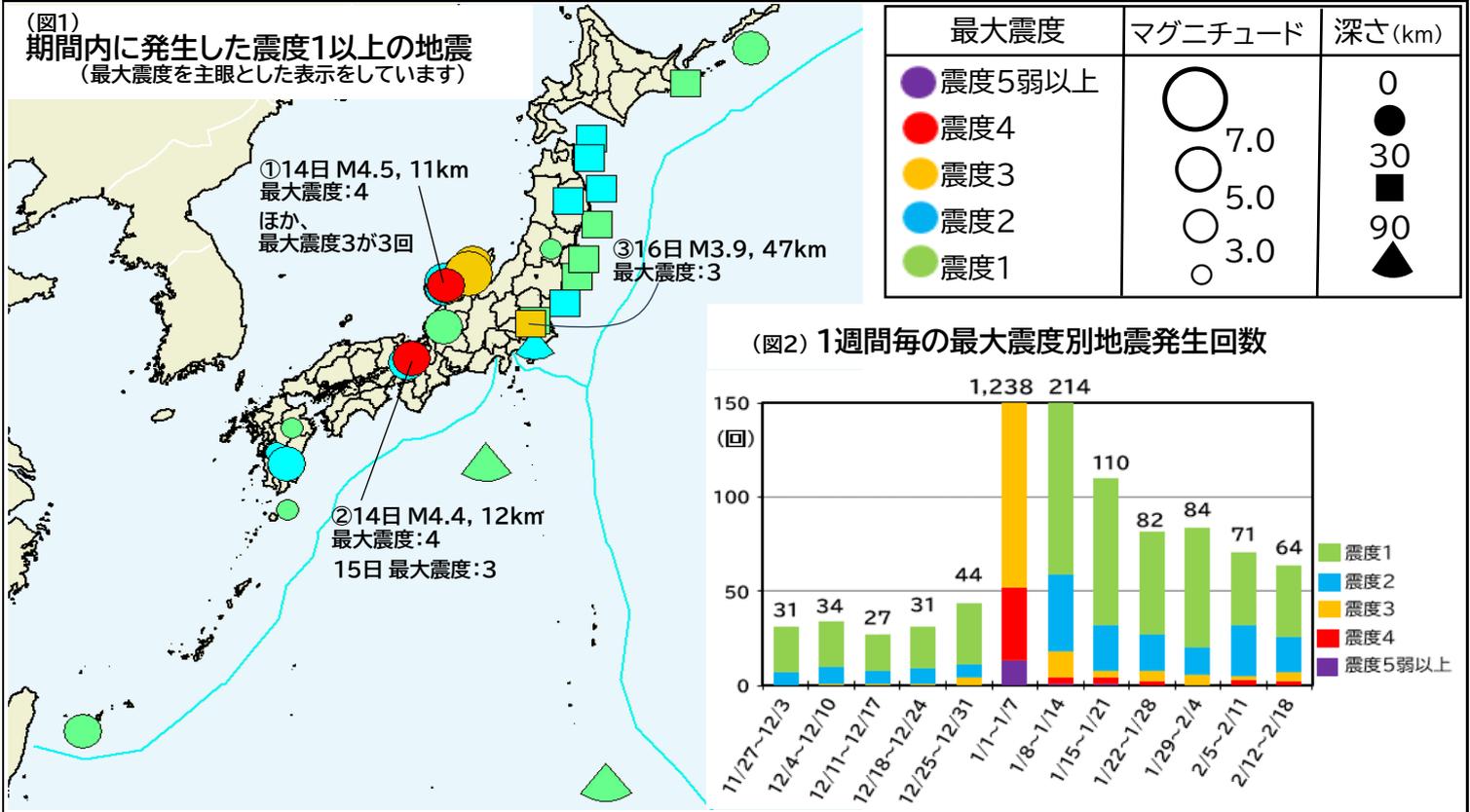


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典: 気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

- この期間、震度1以上の地震が64回発生。最大震度は4(能登半島の活動は引き続き活発) ■
- ① 2月14日10時32分に石川県能登地方で発生した地震(M4.5、深さ11km)により、石川県穴水町で震度4を観測したほか、新潟県から福井県にかけてと岐阜県で震度3~1を観測。この地震は1月1日から活発な活動が続いている能登半島地震の活動域内で発生したもの(トピックスに回数図表あり)。
- ② 2月14日15時29分に京都府南部で発生した地震(M4.4、深さ12km)により、京都市で震度4を観測したほか、岐阜県から広島県にかけて震度3~1を観測。15日にも最大震度3を観測する地震が発生した(トピックス参照)。
- ③ 2月16日18時52分に茨城県南部で発生した地震(M3.9、深さ47km)により、栃木県宇都宮市・下野市・壬生町で震度3を観測したほか、福島県から東京都にかけて震度2~1を観測。

トピックス

■ 京都府南部の地震活動 ■

- ・14日に京都市伏見区で震度4を観測した地震の後、この付近では15日に最大震度3が1回、17日に最大震度1が2回発生した。これらの地震は地殻内で発生したものです。
- ・1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では、M4程度の地震が時々発生しており、群発的な地震活動もみられる地域です(図3)。
- ・2022年3月末から6月にかけて地震活動が局所的に活発となり、今回の地震と同規模のM4程度の地震が4回発生し、震度1以上を観測する地震も16回発生した。
- ・この付近で発生する地震の原因としての一つの可能性として、能登半島地震のように地下からの流体の可能性があると指摘する研究結果もある→この地域には地下60km~80kmにフィリピン海プレートが沈み込んでおり、海水を含んだフィリピン海プレートが地下深く沈み込み、地中で熱せられてしみ出た海水が徐々に上昇して断層に入り込み、断層を滑りやすくしている可能性があるとの考えによるもの。

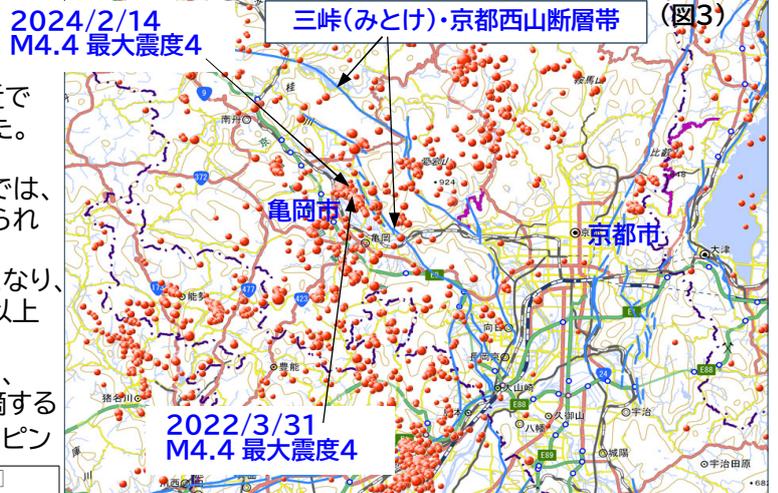
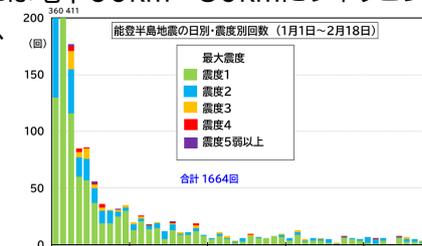


図3:震央分布図 1997年10月1日~2024年2月17日 (M≥2.0) 赤丸一つ一つが地震が発生した場所。水色線は主な活断層 国土地理院の地図にプロット

能登半島地震 最大震度別回数(1月1日~2月19日12時)

最大震度	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	合計
回数	1004	427	167	48	7	8	2	0	1	1664